

伝えよう・広げよう・キリストの心を

社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

No.28

聖家族有志会報

共に生きる

編集／〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 アドラック内／瀬下幸弘

きさらぎ
如月
2013



- ・クルマ運動
- ・2月11日(月、休日)14時～16時半
- ・小倉北区東篠崎一丁目13(モノレール片野駅徒歩3分「ほつともつと」裏)
- ・無料駐車場40台あります。
- ・どなたでも参加できます。

今なぜ信教の自由なのか

谷司教が講演(日本キリスト教団小倉東篠崎教会)

黒崎信徒有志、他の皆さんと取組んだ
年末街頭募金総計

87,479円

下記へ送金致しました。
①東北震災被災地支援
②人権オンブズ福岡
③小規模障害者施設エルビス

ご協力有難うございました

お知らせ

- ◆2月3日(日) 教区信徒協(熊本手取教会)…14時
聖書講座(ペリオン神父)小倉教会…14時
- ◆2月10日(日)英語ミサと交流会(黒崎教会)…15時
- ◆2月11日(月)イチイチ祈りの会 修道院…13時
谷司教講演(日本キリスト教団小倉東篠崎教会)
- ◆2月12日(火) 社会福音部会(アドラック)…19時
- ◆2月15日(金)炊き出し(黒崎教会)…13時～18時位
- ◆2月17日(日)ACO総会(天神町教会)…13時
- ◆2月23日(土)キリスト者九条(西南KCC)…14時
- ◆2月24日(日)虹の会(黒崎教会) ミサ後～

この日は、司祭4人を含め、約40人が集いました。まず司教団メッセージとそのコメントを読み合い、感想からスタート。初めに「なぜ原発を作る時に反対を言わなかつたのか。事故が起こつたら廃止をいふのなら事故が起こらなかつたなら廃止を言わなかつたのか。事故が起こつたから廃止をいふのなら事故が起こらなかつたのか」との発言がありました。これを受け、原発が安全神話で危険を隠してきたこと、國民に知られなかつたこと、廃棄物の処

理方法がないこと等の意見が次々と出されました。最後に発言したペリオン神父の「キリスト者」という前に、人間として出発しよう。何もしなければ本当の人間ではなくなります。研修会などいろいろしてしまいますが、もう十分。行動していきましょう。」の発言に拍手が起りました。まさに「なぜ何もしないでここに立つているのか」を問われているようです。2時間20分があつという間に過ぎていきました。

北九州信徒協では、毎年1月に司祭団と意見交換会を開いています。原発の即時廃止メッセージを受けて、何をしなければならないのか、それぞれの角度から活発な発言が交わされました。(発言記録有ります。信徒協)

なぜ何もしないで一日中ここに立っているのか

司教団メッセージを元に熱い討論

1月13日・小倉教会

ときのことば

政府は原発を押し進めようとしている。司教団メッセージは迫害の材料になり得ると思う。キリスト者が声を出すと國民からも反発を受けるかも知れない。そこまでいく可能性もあると思う。(1月13日、司祭団との懇談会で)

援助修道会 修道院より

2月11日:イチイチ祈りの会

場所は修道院聖堂、午後1時から。
どなたでもお出でください。

岩手県・大船渡ベースと仙台教区外国人支援センターでの8日間ボランティア体験

有吉 和子

『私は、自分が神の手の中にある鉛筆のように感じます。神は私たちを通して書ききます。

私たちがどんな不完全な道具であっても彼は美しく書きます。』

—マザー・テレサ—

東日本大震災があった時から私は、現地に行ってその状況を知りたい、ボランティアに行きたいと思っていました。でも、震災の前の月に私の父がなくなり、母の精神疾患が進む中、とても無理だとあきらめっていました。その後、母の病気も落ち着いてきた昨年の秋、母のことを共に担っている妹にボランティアのことを相談しました。妹は留守中の母の世話を快く引き受けってくれました。また夫の理解もあり、そのお蔭で、8日間の私のボランティア体験が実現しました。

私は、福岡教区に交通費を援助していただき、11月17日から24日まで古賀教会のジュード神父様と二人で、岩手県の大船渡ベースに行きました。なぜ大船渡かというと、そこには、仙台教区外国人支援センターが併設されているからです。多くの外国人、特にフィリピン女性が言葉も文化もまったく異なる岩手県に嫁いでいます。現在、外国籍の方々に関わっている私は、彼女たちの震災後の生活状況を知りたいという思いが強くありました。



〈11月17日〉大船渡に向けて出発。

福岡空港8:55発仙台まで約1時間半。あっという間に到着しました。そこから大船渡までは午後1時半発のバスで約4時間の長い旅です。震災後、まだJRは復旧していないの

です。バスは紅葉美しい山道を走り、山々の美しさに感激しました。震災がうそのようでした。

午後3時過ぎると辺りは薄暗くなり、小雨が降り始めました。山道から見下ろせる海沿いの景色に嘆息。ほとんど空き地です。家のコンクリートの土台枠だけが痛々しく残っていました。バスは気仙沼に入りました。しばらくすると、巨大な船が私の目に飛び込んできました。津波で陸の上に乗り上げたのです。



「津波は確かに現実だったのだ。」心に重くのしかかり、地の底からうめき声が聞こえてくるようでした。

5時前、辺りは、真っ暗。眼下の景色も真っ暗。海なのか、地面なのか、灯りなくわかりません。

6時前大船渡ベース着。ベースでは、分かち合いの最中でした。早速参加しました。その日は、信者でない方3人、神父様3人、スタッフのシスター2人を含め12人での分かち合いでした。

毎日の分かち合いで、その日の色々な活動報告と活動を通しての思いを分かち合います。一人ひとりの思いを聴いて、翌日からのボランティア体験への、期待と不安が入り混じった複雑な気持ちが生まれてきました。分かち合い後、ろうそくの灯をともし震災で帰天された方を想い皆で黙祷しました。その後の楽しい夕食のひと時に疲れも少し癒されました。

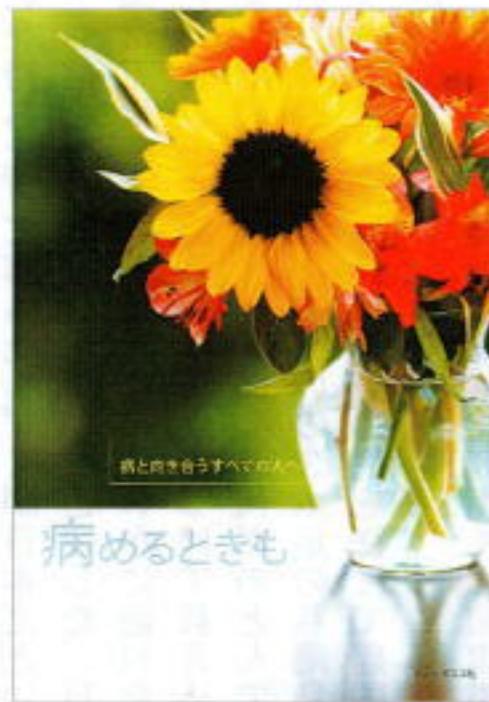
(次号は11月18~19日の体験から)

病と向き合うすべての人へ 病めるときも

2009年にドン・ポスコ社より発行された小冊子です。晴佐久昌栄神父の「夜の病室のあなたに」から始まり、「病者の塗油」「私の願い」「ガンと歩む作家が語る」「聖書において病気はどう捉えられているのか」「病気のときの先人たちの言葉」など短くまとめられています。「この冊子を身近な方たちに紹介してほしい」との声を受けました。

ご希望の方は、編集部までご連絡下さい。

FAX 093-622-1290



祈り

信徒協

- ◆ 聖書講座 2月3日(日) 14時
カトリック小倉教会 ベリオン神父
「ルカを読む」
- ◆ 典礼研修 2月10日(日) 14時
カトリック小倉教会 白浜満神父
「ミサ典礼と私たちの信仰」
上記は、どなたでも参加できます。
- ◆ 北九州地区年末募金総額は
1,279,968円でした。
- ◆ 筑後地区信徒協が4月から
発足します。

8ページ追加され新パンフ発行

いのちを守るために 内部被曝を知って下さい

昨年発行され、反響が大きく質問も多数寄せられました。子ども達への健康が心配される内部被曝を学んでほしいと思います。

内部被曝し続けている今
いのちを守るために



監修 矢ヶ崎克馬
編集 子どもと地球の未来・ノーベクレル

- ・1ミリシーベルト？
- ・除染は効果あるの？
- ・食品の放射能の安全？
- ・水道水は飲める？
- ・内部被曝の検査は？
- ・病気以外の症状は？
- ・チェルノブイリの今？
- など盛りだくさん

A5サイズ
カラー刷り
1部／100円
問い合わせFAX
093-622-1290

分かち合のひととき

虹の会

1月27日 12名参加

教皇ベネディクト十六世 2013年「世界平和の日」(2013年1月1日) メッセージ

『平和を実現する人々は幸いである』より「福音の幸い」をもとに分かち合いました。

「平和は、たまものの交換、すなわち、神に由来し、他者とともに、他者のために生きることを可能にするたまものを互いに豊かに与え合うことから生まれます。平和に基づく生き方は、交わりと分かち合いの生き方です。」
という箇所に共感した参加者が多かったです。

また、先日のアルジェリアでの悲劇を通して、「平和とは・・・?」「身近なところから一人ひとりが平和のために出来ることがある」などが分かち合われました。

有意義な交わりの中、平和なひと時を過ごすことができました。

次回は、2月24日ミサ後です。どなたでもご参加ください。

戦時下のくらしと憲法9条



いしい まさこ
石井 方子さん
八幡東区在住

八幡東九条の会事務
局長
税理士

自身の体験を通して
平和の大切さを呼び
かけています。

(2)
全6回

子供には理解できないような難しい文章でしたが、暗記させられました。神話ではなく有難い日本の歴史としてです。口に出してはいけないことなのに、天孫降臨なんてそんなことないよね」と友達が言つたので私もそう思いましたが黙っていました。とにかく、イザナミノミコトが「あまのしゃちほこ」で大海をかき回しそれを持ち上げて落ちたしづくが日本だといふことも信じなければいけないことでした。日本は万世一系の天皇を戴く、いかに優れた国からいうことを繰り返し何かにつけて教え込まれました。弥生時代だの縄文時代だのとんでもない神武天皇が神の使いの3本足の八咫鳥(ヤタガラス)に導かれ四方の民を従えて建国してから2600年なのです。

毎朝全校生徒が校庭に整列朝礼、国旗掲揚の後、少国民としての信条を唱和します「私たちは、かしこくも、天皇陛下の大御心を奉戴し、一生懸命今日の務めに励みます」というもので

す。風に乗つて近所の小学校の同じ信条を唱え声も聞こえきました。日本はほんではなく、今までどつちでもよかつたのが「ニッポン」と言わなければならなくなりました

昼食の前に団体訓練といわれるものがありましたが、低学年を除く全生徒が校庭に集まりクラスごとに4列縦隊で校庭を行進します。壇上に立つ校長先生のまえ近くにくると先頭の級長が「歩調とれ」と号令をかけ「かしら右」と剣とみなした小旗を振りおろします。校長はもちろん軍隊式に敬礼をします。そして教室に入つてお弁当。その前に御製といつて天皇皇后の和歌を謳います。

校門を入つてすぐに天皇のご真影を納めてある奉安殿があります。ご真影、これは命にかけても守らなければならないもで、火事でご真影を持ち出せなかつた校長先生が切腹した、といふ話が子供たちの間でささやかれていました。そのご真影とは天皇の写真とのことですが見たことは一度もありません。前を駆け抜けるなどとんでもないことで、必ずだれが見てなくても、立ち止まり、直立不動の

姿勢を取つて、最敬礼をすることが厳しく言われるようになりました。防空空訓練も頻繁に行われました。でもまだ防空頭巾をもつて登校することはありました。元旦、



奉安殿に最敬礼

大月書店「子どもたちの昭和史52p」

新嘗祭、明治節、大正天皇祭が当時の祝日で全部皇室に関係しています。祝日は勉強はしませんが登校します。カーンと鉦がなると、ご真影とともに奉安殿にある勅語を校長先生が出合図ですから、どこにいても立ち止まり終わりの場にじつとしているなくてはなりません。それから講堂に集められ、白手袋の教頭先生が、息がかからないように高く捧げ持つた勅語を校長先生に手渡します。恭しく校長先生が受け取りそのままのふたを開けようとするそのとき、すかさず「低頭！」と声がかかります。一斉に首をうなだれなければなりません。そして勅語の奉読が始まっています。読み終わるまでその低頭は続きます。見てはいけません。なぜか、みんな子供は涙を垂らしていく下を向くと涙を、すすりあげなければなりません。下を向いてるので涙はすぐ垂れ下がり再び急いですすり上げねばならず、勅語を読み終わるまでは苦痛に満ちた時間でした。あちこちで涙をすすりあげる音、今でも思い出されます。教育勅語とともに、歴代天皇の名前も暗記させられました。

先日の憲法祭りのとき、暗誦した憲法前文を朗々と読み上げてくださつて感動しました。その感動とともに、私が暗誦して今でもいえるのは「教育勅語だ」と思ひいたつて心の中で苦が笑いました。

戦時色は日を追つて強まり、敵国米英の音樂や唱歌や単語は一切ご法度となり、音階は、ハニホヘトイロハとなりました。（続く）

龍と出会い（Y）

せまい参道を登っていくと、突然龍が、、、ただの倒木なんですが、見方によれば龍です。

その横に「この木、龍神様に似ていませんか」と立て札がありました。

山頂の巨大岩の上に白いものが、、、かわいい白猫が日なたぼっこをしているました。自然に触れれば、出会いもまた楽し。

3月10日(日) 勝山公園で 10時~15時

さよなら原発北九州集会（瀬下）

広瀬隆さん、山本太郎さんがゲスト

出演。キリスト者の旗の元に市民と一緒に集まりましょう。バザー、バンド演奏などあります。



ツイッター

自然エネルギー10のいいこと

1. CO₂も放射能もださない
2. 健全な雇用
3. ずっと使える無限の資源
4. すべて国産。エネルギー自給率アップ
5. 地方に原発押し続けず、身近にいっぱいミニ発電
6. 燃料はタダ
7. 電気を使うところで作るからロスがない
8. 災害にあっても復旧が早い
9. 優れた日本の技術はビジネスチャンス
10. 自然エネルギー産業で地域に仕事が生まれる



日本軍「慰安婦」問題解決のために（ぼーさん）

謝罪と賠償、尊厳の回復を求め、1月30日（第5水曜）JR小倉駅南口で水曜デモが行われました。12名の有志で呼びかけ、無視する人も多い中、高校生が「終わらない戦争」のチラシを受け取ってくれました。韓国では日本大使館前で犠牲になったハルモニ達が1000回を超えて毎週デモを続けています。慰安婦問題を認めようとしない政府を、私は日本人として情けなく、恥ずかしく思います。

『終わらない戦争』上映会

2月20日（水）午後2時~

西南KCC
(小倉北区太田町14-31)

参加費は500円

問い合わせは編集部まで



読みごたえある本です（山田）

社会問題研究所発行「国際情勢の危うさと福音の光」西山俊彦神父の著書。領土問題と政治的解決法など。とにかく読んでほしいですね。

昭和30年代へ逆戻り（R）

懐かしの受話器、ペコちゃん、木炭を入れてアイロン、乗り合いバス。豊後高田の昭和の町は、訪れる人の多くが「わー、これ使ってたアー」と声をあげます。私が一番印象に残ったものは、教室。木の机と椅子。五つ玉のそろばんでした。



セミナーのお知らせ

日本カトリック難民移住移動者委員会
被災地の現状と復興に向けた歩みの話

このたび、東北から現地の報告と震災からの復興活動をしている方のお話を聞き学ぶセミナーを開きます。

*とき……2013年3月10日(日) 14時~15時30分
(16時より英語ミサがあります)

*ところ……カトリック大名町教会 一階講堂

*参加費用……無料

*話をされる方

アントニウス・ハルノロー神父（仙台教区対日外国人支援センター）
菅原マリフエさん（大船渡教会のフィリピン人共同体リーダー）

マイクロバスも用意しています

問い合わせ
有吉まで

ハンセン病問題から見えるもの

く差別の垣根を取り除くためにく(9)

資料館での説明

資料館で学芸員から説明を受けました。

「らい予防法」は1996年、廃止されたのですが、ハンセン病は恐いという意識は払拭されませんでした。こうした元患者に国が何ら補償をしなかつたために1998年、熊本地方裁判所に訴えました。2001年勝訴判決。その後、ハンセン病に対する偏見や差別をなくすための啓発活動としてこの資料館ができ、その一環として皆さんがここに来て学んでいるということです。ところが、2003年11月に宿泊拒否事件が起きました。

12、アイスターホテル宿泊拒否事件（編集部文責）

熊本県のアイレディース宮殿黒川温泉ホテルがハンセン病元患者の宿泊を拒否した事件です。県のふるさと訪問事業の一環として、菊池恵楓園入所のハンセン病元患者の宿泊をそのホテルに予約しましたが、ホテル側が「他の宿泊客への迷惑」として断つたのです。県はホテル会社に、ハンセン病についての説明を行い理解を求めましたが、受け入れませんでした。県知事も宿泊拒否の撤回を求めましたが、これも拒否。法務局が人権侵害や旅館業法違反などの疑いで調査を開始することに。黒川温泉旅館協同組合に抗議の電話やFAXが寄せられました。

ところが事態が一変しました。ホテル側は謝罪意向を示し、後日恵楓園を訪れ「謝罪」文書を読み上げたのです。しかし内容がホテル側としてではなく、総支配人個人のものに変わっていたため、自治会側が総支配人に対し激しく抗議し謝罪文の受取りを拒んだのです。この時の様子がテレビで流されました。そうすると今度は、恵楓園や自治会に対して非難と中傷の電話やFAX、はがき等で抗議文が寄せられるようになりました。

その後「法務局がホテルに人権尊重を勧告」「ホテル社長が交代し、責任は県にあると発言」「黒川温泉組合がホテルを除名」「ホテル社長は自治会に謝罪」「地検が人権侵害と認識」：「ホテルを廃業」等目まぐるしく動きました。

この宿泊事件を社会はどう受けとめたのでしょうか。誹謗・中傷した手紙等から国民の中に潜む何かが見えてきます。（差別文書そのものについては公表できません）「ある恵楓園入所者がシンポジウムでこう語った。「ひどいものだつた。例えば、後遺症のひどい人の写真をはがきの中央に張り付け、矢印で指示して言いたい放題書いてあつたものがあつた。ありつけの汚い言葉を駆使したものもあつた。」（市民学会報告書より）」この言葉に象徴されているのは、ハンセン病に対する偏見と差別が現在もなお続いているという事実に他なりません。国が意図的に作り出した差別を自治体、医学界、法曹界等あらゆる各界が支えてきたと言えます。宗教界の責任も看過できません。報告書は「宗教の名において行なわれた慰安教化等…この世の

救いではなく、あの世の救いを求めることがあります。この宗教者の善意は、入所者らが強制的隔離政策の廃棄に向かって立ち上げることを結果的に妨げ、間接的にですが、らい予防法の制定および遅すぎた廃止を下支えすることとなつた「回復者たちが同情されるべき存在として控えめに暮らす限りにおいては、この社会は同情し、理解を示す。しかし、強いられている忍耐に對して立ち上がるうとするときが差別・偏見であることに気づいていない。」と指摘。（次号へ）

編 集 後 記

1995年、日本カトリック司教団が戦後50周年にあたって平和決意を発表。その中で戦争へと進む流れを読み取れずにいたことを認め、回心のあかしとして平和に向かう道を決意しました（従軍慰安婦問題含む）。10年後の2005年にも平和メッセージを出し、特に靖国神社参拝を容認して戦争へと加担したことを反省しました。そして一昨年の「いますぐ原発の廃止を」発表。しかし安倍政権の方角はどれも真反対を向いています。ある司祭が「司教団メッセージは迫害の材料になり得ると思う。いま私たちの生き方が問われています。（瀬下）